

今後の電子・情報産業の技術開発プロジェクトの在り方を考える検討会の 開催について

平成21年11月27日
NEDO 技術開発機構
電子情報技術開発部

1. 検討会の背景・目的

- 新エネルギー産業技術総合開発機構（以下「NEDO 技術開発機構」）においては内外の経済的・社会環境に応じたエネルギーの安定的かつ効率的な供給の確保及び経済・産業の発展という観点から、様々な分野において民間の力を活用することにより研究開発を推進しており、電子情報産業分野においては、半導体素子の微細化、LSI の設計力の強化、ネットワークの光信号化、メモリの不揮発化、といった分野において研究開発プロジェクトを展開してきた。
- このような電子情報産業分野のプロジェクトの成果を個別に見ると、多くの場合において所定の目標が達成されており、共通基盤技術の底上げや将来技術の実用の早期化といった点で、一定の成果が挙げられているところである。また同分野では民間独自の取組においても高いレベルの研究開発がおこなわれており、液晶テレビや記録ディスクなどの分野において世界に先駆けて我が国企業が最先端の技術を実用化させるなど大きな成果を上げている。
- しかし我が国の電機情報産業全体に目を向けると、厳しい国際競争の中で世界的なシェアや利益率の低下といった大きな問題を抱えており、必ずしも優れた研究開発成果が事業の成功に結びついていない現状にある。この大きな要因として、電機情報産業において研究開発や設備投資の巨額化、製品のコモデティ化といった構造変化が生じる中で、その変化に適応して産学官各々がその役割を再定義し、効率的に研究開発を行う仕組みを再構築できなかったことがある。具体的には製品差別化の要因が製造プロセス技術からデザイン技術に比重が移行する中で、必ずしもその変化に対応した研究開発戦略が構築できなかったこと、さらに各社の事業戦略が多様化し「業界共通の技術課題」が減少していく中でそれに捉われない新たな国家プロジェクトの枠組みを作れなかったこと、などがある。
- 本検討会ではこのような状況を踏まえて、海外企業・研究機関と我が国企業・研究機関の戦略比較、技術の賦存状況、異業種連携による新市場の開拓の可能性等について議論し、今後電機情報産業分野において我が国はどのよ

うな研究開発の体系を志向すべきか、またその中で NEDO 技術開発機構としては具体的にどのような研究開発にどのような仕組みで取り組むべきかを明らかにし、従来の在り方に捉われない新たな国家プロジェクト像を描き、今後の研究開発課題の選定、マネジメントの改善につなげることを目的とする。

2. 会議の位置づけ

NEDO 技術開発機構電子情報技術開発部が主催する有識者会議として設置する。

3. 委員構成

資料 1 のとおり

4. 議論の進め方と日程

(1) 議論の進め方

本検討会は、委員各位による率直かつ自由な意見交換を確保するため非公開とする。ただし、本研究会の配付資料、議事要旨は、支障のない限り、NEDO 技術開発機構のウェブサイト上等において原則公開するものとする。なお、特別の事情がある場合には、座長の判断により非公開とすることができる。また各回のテーマに合わせて逐次委員を招き、議論の活性化を図ることとする。本検討会の検討結果は報告書としてまとめ、NEDO 技術開発機構のウェブサイトにおいて公開するものとする。

(2) 日程

第 1 回 11 月 27 日 (金)

○問題提起と我が国電子・情報産業の現状把握

プレゼンテーション：NEDO 電子・情報技術開発部 中山 亨
：アナリスト 佐藤 文昭

第 2 回 12 月 14 日 (月) 午前 開催予定

○電子・情報産業分野における研究開発の特色

プレゼンテーション：東京大学 小川 紘一
：東京工業大学大学院 藤村 修三

第 3 回 12 月 24 日 (水) 午後 開催予定

○ユーザーが期待する電子・情報産業分野における研究開発

プレゼンテーション：未定 (ユーザー企業の方)

第4回 1月中 開催予定

○我が国の強みを活かした研究開発のあり方
プレゼンテーション：未定

第5回 2月中 開催予定

○研究会報告書案

以上